

全国に約千三百社ある浅間神社の総本宮

世界遺産富士山 構成資産

富士山本宮 浅間大社





浅間大社の始まり

古くから人々は、噴火する富士山に怒る神の姿を重ね「富士神」として畏れていました。

富士山本宮浅間大社の社伝によると、紀元前27年、神の怒りを鎮めるために山足之地(富士山麓)に富士神を祀ったことが浅間大社の始まりとされています。富士神は、西暦110年に山宮浅間神社に遷され、平安時代になると浅間大神(火山の神)と呼ばれるようになりました。

西暦806年、坂上田村麻呂が山宮浅間神社の里宮として現在の地(大宮)に社殿を創り、浅間大神を祀りました。里宮として大宮の地が選ばれたのは、湧玉池などで豊富に湧き出る水が噴火を鎮めると考えられたからといわれています。

このはな の さ く や ひめのみこと 木花之佐久夜毘売命

浅間大社では、浅間大神を木花之佐久夜毘売命として祀っています。

木花之佐久夜毘売命は、火と水の両方の力を持ち、その力によって、富士山の噴火を鎮めたといわれています。

木花とは、桜のことで、桜の花が咲くように美しいとされる木花之佐久夜毘売命のイメージは、白い雪をまとい、ゆったりと裾野を広げる美しい富士山の姿とも重なります。



登山道の起点

平安時代後期、富士山の噴火が収まると、多くの人々が富士山へ登るようになります。富士登山が盛んになると、浅間大社(大宮)は、富士山興法寺(村山)とともに富士山南麓からの登山の起点となりました。

大宮と村山を通り、富士山頂を目指す登山道は、世界遺産富士山の構成資産「富士山域」の構成要素の一つで、「大宮・村山口登山道」と名付けられています。この道から多くの人々が富士登山をしたため、浅間大社の周辺には10を超える宿坊(宿泊施設)があったと伝えられています。

室町時代に描かれたとされる「絹本著色富士曼荼羅図」には、浅間大社を参拝した人々が、湧玉池で心身を清め、富士山へ向かう様子が描かれています。



▲国指定重要文化財に指定されている「絹本著色富士曼荼羅図」(富士山本宮浅間大社蔵)



▲左側に浅間大社、中央に湧玉池、右側に宿坊が描かれています

もとみや さとみや 元宮と里宮

明治時代の初めまで、春と秋に浅間大神が山宮浅間神社(元宮)と浅間大社(里宮)を往復する山宮御神幸が行われていました。

今も4月の初申祭では、浅間大社と山宮浅間神社を参拝して豊かな実りを祈り、11月の例祭では、実りの秋に感謝しています。



▲氏子町内では、山車をひき回し例祭を祝います

富士山頂の奥宮

富士山の頂上には、浅間大社の奥宮があり、富士山の8合目以上が境内地となっています。

かつてここには、平安時代末期の修行僧である末代上人^{まつだいしょうにん}によって、大日寺が建てられ大日如来(仏)が祀られていました。明治時代初めの神仏分離令^{しんぶつぶんり}が出されたことによって、激しい廃仏毀釈運動^{はいぶつきしやく}が起こり、富士山中の仏教に関する仏像や寺院が廃止されました。その際に、浅間大社は寺の建物を買い受け、大日如来に替えて浅間大神を祀りました。

※神と仏を別々に信仰させるための政府の命令



▲明治34年、奥宮では寺の建物が取り壊され、新しく本殿が建てられました

本殿 国指定重要文化財

浅間大社の本殿や拝殿、^{ろうもん}楼門などの建物は、徳川家康によって建てられました。

本殿は、全国的にも珍しい浅間造^{せんげんぞう}と呼ばれる2階建て構造で、朝廷や徳川家の紋、富士山の模様などの装飾があります。

1670年に描いたとされる古絵図には、2階建ての本殿や拝殿、湧玉池のほか、今はない大日堂や護摩堂^{ごまどう}、三重塔などの仏教施設も描かれ、神仏習合^{しんぶつじゅうごう}※だった頃の浅間大社の姿を見ることができます。

※日本古来の神の信仰と仏教を結びつけて考える思想



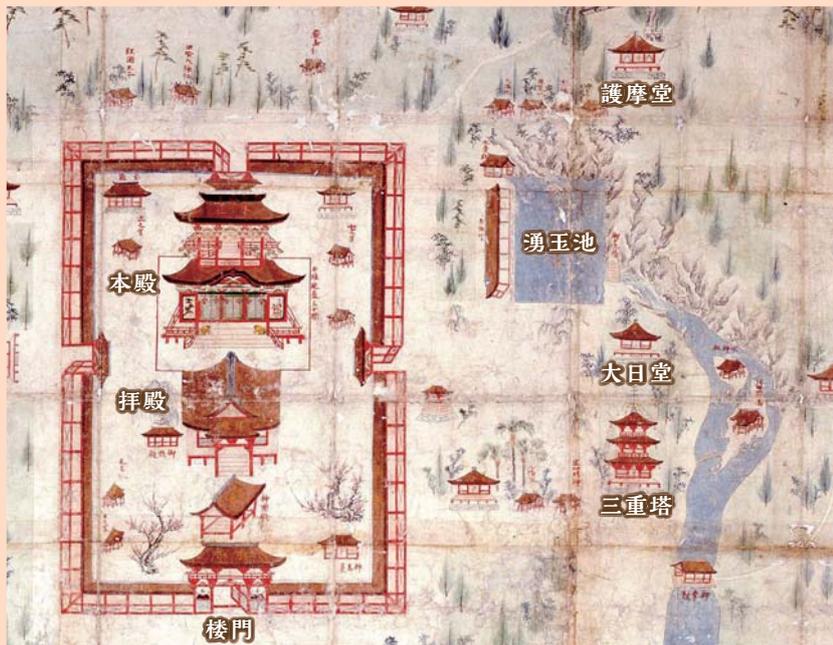
本殿の東側から朝廷の紋、西側から徳川家の紋、北側から富士山の模様の装飾が確認できます



朝廷の紋
菊と五三桐

徳川家の紋
三つ葉葵

富士山の模様



▲寛文10(1670年)「浅間大社境内絵図写(社頭古絵図)」(富士山本宮浅間大社蔵)

湧玉池 国指定特別天然記念物

湧玉池は、富士山に降った雨や雪が地中に染み込み、長い年月をかけて溶岩の末端からこんこんと湧き出し、池になったものです。

平安時代に三十六歌仙の一人^{たいらのかねもり}「平兼盛」が詠んだ和歌から、この時代にも湧玉と呼ばれ、参拝者が御手洗川で手を清めていたことがわかります。

つかふべき 数にとらむ 浅間なる
御手洗川の 底にわく玉



武将と浅間大社

By:Y.N



浅間大社は、有名な武将たちにとっても大切にされてきました



源頼朝は、富士の巻狩の際、流鏑馬(馬上から弓での射る武芸)を奉納しました



武田信玄は、境内に7本のしだれ桜を手植えし奉納しました



徳川家康は、関ヶ原の戦いで天下統一を果たした際、本殿などを建てました

お問い合わせ

富士宮市役所
富士山世界遺産課
☎22-1489 FAX 22-1206



富士山世界遺産課公式Twitter

富士宮を歩く すてじかん。

動画はこちら→



歴史と文化が香る大社周辺マップ

ゆっくり
歩いて
2時間



1 芙蓉館碑
富士氏*の居館「芙蓉館」があった場所



2 富士亦八郎重本筆跡の道祖神
幕末の浅間大社大宮司「富士亦八郎重本」が記した文字道祖神



3 富知神社
富士山を祀る神社で、もとは浅間大社の場所にあった



4 二之宮浅間神社
木花之佐久夜毘売命の第二王子を祀る



5 若之宮浅間神社
木花之佐久夜毘売命の第一王子を祀る



6 大宮縄状溶岩 市指定天然記念物
溶岩が冷えて収縮する際、縄のような形になったもの



7 御神幸道三丁目の碑
浅間大社から1丁(約109m)毎に山宮浅間神社までの御神幸道に置かれる「丁目石」



8 蔵屋敷稲荷
富士氏*が、拠点とした大宮城の蔵屋敷に祀られていた稲荷社といわれる



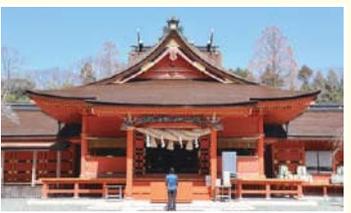
9 桜の馬場
源頼朝が、奉納したことに由来する流鏝馬祭が毎年5月に行われる



10 鉾立石
山宮御神幸の際、神の宿る鉾を立てて休めた石



11 楼門 県指定文化財
高さ約12m。左右には隨身像が安置されている



12 拝殿 県指定文化財
徳川家康が、関ヶ原の戦いに勝ったお礼として建てたとされる



13 信玄桜
武田信玄が、しだれ桜を手植えし奉納したとされる



14 水屋神社
湧水を司る神として、湧き水の水源の岩の上に祀られる神社



15 駿州赤心隊の碑
江戸時代末期、富士亦八郎重本が隊長となり官軍の東征への参加のために結成



16 御神幸道首標の碑
元禄4(1691)年立石。山宮浅間神社までの御神幸道の起点とされる